

第1回横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会

令和2年11月9日（月）14時30分～
瀬谷区役所 5階会議室

<次 第>

開 会

- 1 開会あいさつ
- 2 委員紹介等

議 題

- 3 委員長選出
- 4 地域子育て支援拠点事業の概要について
- 5 運営法人の選定方法について

閉 会

第2回選定委員会

日時：令和2年11月24日（火） 13：30～

場所：瀬谷区役所3階 特別会議室

<配布資料一覧>

- 1 【資料1】選定委員名簿・・・P 1
- 2 【資料2】地域子育て支援拠点概要等について・・・P 3～7
- 3 【資料3】瀬谷区子育て支援拠点事業 5か年度の事業評価・・・P 9～27
- 4 【資料4】運営法人の選定方法等について・・・P 29～30
- 5 【資料5】
 - ①評価指標の点数のつけ方について・・・P 31～35
 - ②選定委員会 評価指標・・・P 37～38
- 6 【資料6】提出書類一覧・提案書類様式・・・P 39～59
- 7 【資料別冊】
 - (1) 横浜市附属機関設置条例（抜粋）・・・P 1
 - (2) 横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会運営要綱・・・P 3～7
 - (3) 選定委員会の流れ・・・P 9～10
 - (4) 横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人及び子育てひろば私立常設園
選定委員会要綱・・・P 11～12
 - (5) 横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点の運営者の選定に関する要綱・・・P 13～15
 - (6) 横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人募集要項・・・P 17～29
 - (7) 令和3年度度横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点事業仕様書（案）・・・P 31～50
 - (8) 横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点事業実施要綱・・・P 51～53
 - (9) 横浜市子育てサポートシステム資料一式・・・P 55～71

令和3年度横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会委員名簿

	区分	所 属	氏 名
1	学識	小田原短期大学 学長 (横浜市子育て支援拠点事業運営事業者選定委員会 委員)	吉田 眞理
2	地 域 ・ 支 援 者	瀬谷区連合町内会・自治会連絡協議会 会長	網代 宗四郎
3		瀬谷区社会福祉協議会 会長	福田 愛一郎
4		瀬谷区民生委員・児童委員協議会 会長	紅林 千津子
5		瀬谷区民生委員・児童委員協議会主任児童委員 代表	久保菌 祐子
6		瀬谷区地域ケアプラザ所長会 代表	仁平 不二雄

地域子育て支援拠点について

1

地域子育て支援拠点とは ～法制度上の位置づけ～

▶ 児童福祉法に基づく子育て支援事業

厚生労働省「地域子育て支援拠点事業実施要綱」

- ▶ 目的：少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的とする。
- ▶ 基本事業：子育て親子の交流の場の提供と交流の促進・子育て等に関する相談、援助の実施・地域の子育て関連情報の提供・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

2

地域子育て支援拠点とは ～ガイドラインより～

- ▶ 地域子育て支援拠点事業における活動の指標「ガイドライン」（改訂版）より抜粋

1 地域子育て支援拠点とは

地域子育て支援拠点は、親同士の出会いと交流の場であり、子どもたちが自由に遊びかかわりあう場でもある。親は親で支えあい、子どもは子どもで育ちあい、地域の人たちが親子を温かく見守ることが、子育て・子育てにおいては必要不可欠な経験となる。すなわち、地域子育て支援拠点は、親子・家庭・地域社会の交わりをつくりだす場である。

3

地域子育て支援拠点事業の横浜市の計画 上の位置づけ

第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画～子ども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン～（令和2年度から令和6年度）

- ▶ 基本施策1 乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期までの切れ目のない支援
- ▶ 基本施策5 生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実
- ▶ 基本施策6 地域における子育て支援の充実

9の基本施策のうち、3の施策に地域子育て支援拠点に関連する目標・方向性が示されている

4

横浜市の地域子育て支援拠点の特徴

区と拠点の連携

▶ 区と運営法人の協働事業

子ども・子育て支援事業計画の前身の計画から「専門性を発揮した対応が求められるところは行政が中心となって担い、地域の子育て支援は市民と行政が協働して取り組む」としていたことを受け協働事業として実施している。

▶ 横浜市版子育て世代包括支援センターでの連携・協働

区福祉保健センターの福祉・保健の専門職による「専門的な知見」と、地域子育て支援拠点の「当事者目線」の両面から、妊娠期から子育て期の支援体制や機能をさらに充実させるものとして展開。

両者が強みを活かして、個々の妊産婦や子育て家庭を支援するとともに、各々のもつネットワークを強化することにより、地域全体で子育て家庭を支える環境づくりを目指している。

5

協働の取組内容

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
区の日常の役割および関わり				
【定例会の開催】 運営支援、運営体制（関係書類の整備、職員配置、個人情報管理等）の確認 支援を要する事例の共有、対応の確認 事故発生時の対応の確認				
協働事業による情報共有				
(毎年) 【役割分担表の作成、中間振り返り・年度末振り返り】			【有識者を交えた事業評価】	【運営法人選定委員会】

6

横浜市地域子育て支援拠点の機能 (7機能)

▶ 1 親子の居場所事業

乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供

▶ 2 子育て相談事業

子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること

▶ 3 情報収集・提供事業

子育てに関する情報の収集及び提供に関すること

▶ 4 支援者ネットワーク事業

子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること

▶ 5 人材育成・活動支援事業

子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること

▶ 6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

地域の住民同士で子どもを預け、預かる支えあいの促進に関すること

▶ 7 利用者支援事業

子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること

7

引用・参考資料

- ▶ 厚生労働省 地域子育て支援拠点事業の実施について（実施要綱）（令和2年3月27日）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/kosodate/index.html

- ▶ NPO法人子育てひろば全国連絡協議会：地域子育て支援拠点における活動の指標「ガイドライン」【改訂版】. 4, 平成29年3月
- ▶ 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画 子ども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン. 39-54, 55-65, 84-107. 令和2年3月

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/org/kodomo/sonota/shingikai/kosodate/newplan.html>

- ▶ 横浜市版子育て世代包括支援センターの基本的な考え方（平成31年3月）・地域子育て支援拠点事業振り返りまとめ（平成31年3月）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kosodateshien/support.html>

8

瀬谷区地域子育て支援拠点 「にこてらす」について

- ▶ 所在地：横浜市瀬谷区二ツ橋町469番地「せやまる・ふれあい館」1階
- ▶ 開所：平成23年5月22日
- ▶ 登録者数：1,503人（令和2年9月末時点）
- ▶ 利用実績（平成28年4月～令和2年9月末）

	28年度	29年度	30年度	31年度	02年度
開所日数（日）	242	242	241	238	122
利用者数（人） （瀬谷区以外）	10,779 (3,011)	8,988 (2,320)	8,475 (2,473)	7,078 (1,484)	2,380 (614)
1日平均利用者数（人）	44.5	37.1	35.1	29.7	19.5
新規登録者数（人）	972	847	871	696	198

※令和2年4月、5月新型コロナウイルスの影響により「親子の広場事業」を休止しています。

現法人との振り返りにおける
瀬谷区地域子育て支援拠点 次期5か年度で取り組むべきこと

機能	目指す拠点の姿	次期5か年度で取り組むべきこと
親子の居場所	①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	<p>・乳幼児健診でアンケート調査を行ったところ、拠点の認知度は約8割で、その知るきっかけの約7割は区の事業という結果</p> <p>➡<u>拠点を利用しない人のニーズが見えてきたことから、区と拠点の両者で分析を行い、継続的にすり合わせを行う。</u></p>
	②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。	
	③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。	
	④親（養育者）自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。	
子育て相談	①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	<p>・ひろばスタッフが外部研修等を受講できる機会を増やし、スキルアップに努めた</p> <p>➡<u>スタッフのさらなるスキルアップを目指し、相手に寄り添う相談対応の向上を図る。</u></p>
	②相談と受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。	
情報収集・提供	①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	<p>・子育て支援情報を拠点が集約した「瀬谷区子育て応援カレンダー」を毎月作成し、養育者や担い手に配布</p> <p>➡<u>拠点が情報収集・提供の窓口であるということ、関係機関により広く周知する。</u></p> <p>・養育者や地域に詳しい担い手の目線を生かした、乳幼児の外出に必要な情報を一つにまとめた子育て応援マップ(ぐるっとなび)を作成・配布</p> <p>➡<u>養育者へのアンケートなどを実施して、利用者目線で更新・改訂を行っていく。</u></p>
	②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	
	③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。	
ネットワーク	①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	<p>・拠点が、区内の子育て支援団体等で構成される「瀬谷区子育て応援ネット」の事務局を区とともに担い、育児支援者同士の情報交換や課題の共有を実施</p> <p>➡<u>子育て支援団体や担い手同士のネットワークは構築されてきたが、地域活動を主体的に行っている子育てに関わりが薄い層と養育者との関係づくりを働きかける。</u></p>
	②ネットワークを生かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	
人材育成	①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	<p>・スタッフにボランティア担当者を設け、ボランティア希望の方の活動時間や得意なことなどを丁寧に聞き取り、個々に合った活動を提供</p> <p>➡<u>子育て支援に関わる機会が少ない地域活動者へのアプローチについて検討する。</u></p> <p>➡<u>複合館(せやまるふれあい館)のメリットを活かした、多世代のつながりづくりを、今後さらに進める。</u></p>
	②養育者に対して、地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。	
	③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。	
	④これからの子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学びあえるように働きかけている。	

機能	目指す拠点の姿	次期5か年度で取り組むべきこと
<p>横浜子育て サポートシステム 区支部事務局運営</p>	<p>①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。</p> <p>②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。</p> <p>③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。</p> <p>④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援に繋げている。</p>	<p>・区職員の行う家庭訪問時や、地域育児教室(赤ちゃん教室)等で周知するだけでなく、地域の会議にも参加して周知</p> <p>・区内小学校でチラシを配布</p> <p>・利用が増えていないことについて、区と拠点で検討したものの改善に至らなかった</p> <p>→<u>利用が増えていないことについて、具体的な方法を検討し改善する。</u></p>
<p>利用者支援事業</p>	<p>①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。</p> <p>②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。</p> <p>③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。</p>	<p>・乳幼児健診や赤ちゃん教室等の事業で周知を行うとともに、区窓口でも子育てパートナー(利用者支援事業の相談員)を周知</p> <p>・地域の関係機関(地域ケアプラザ、学校など)が開催する会議に出席し、関係を強化</p> <p>→<u>まだ関係が構築されていない機関への周知を引き続き行う。</u></p>

瀬谷区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	瀬谷区地域子育て支援事業
対象期間	平成28年度～令和2年度(5か年)
事業の実施者	特定非営利活動法人さくらんぼ
	瀬谷区子ども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和2年5月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査では、参加できるプログラムがたくさんあることが望まれている。利用者のニーズをもとに拠点の強みを生かす方向で、プログラムを見直す。 「みんなで子育てする場」という拠点の目指す居場所の趣旨を定期的に周知をしていく。 瀬谷区の親子の居場所のあり方について、拠点と区の間で共通理解により一層進めていく必要がある。 	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B

評価の理由(法人)

【新規登録者数】			(人)
28年度	29年度	30年度	
973	848	858	

【プログラム開催実績】			(回)
	28年度	29年度	30年度
年齢別	12	12	23
悩み別	57	59	42

【認知度】(瀬谷区子育てに関するアンケート)		
知っている		82%
【きっかけ】	区事業	72%
	拠点事業	18%
知らない		18%

【年齢別、悩み別プログラム】(一部)

- 産後ママとベビーの話
- 対象:6か月までの親子
- 子育てゼミ Hoihoi(内容は毎回検討)
- 例 トイレトレーニング、卒乳、イヤイヤ期等
- 助産師ひろば相談
- 保育・教育コンサルジュ相談
- 0歳~1歳ママのランチ会

【にこポンテ開催実績】			(延べ人数)
	28年度	29年度	30年度
回数	48	49	50
参加人数	210	181	194

【出張ひろば開催実績】			(回)
28年度	29年度	30年度	
12	10	0	

1 「みんなで子育てする場」

- 利用者の意思表示に合わせて、名札ストラップの色を選択できるようにしている。妊婦・多胎児・産後間もないなどで助けが必要な親には、スタッフだけではなく、少し余裕のある利用者が助け、新規利用者には、常連利用者がひろばの使い方を教えるなど、利用者同士の助け合いや交流のきっかけになっている。
- 庭があることによって思い切り体を動かして遊べるため、利用者の来所のきっかけになっている。また、気軽に遊びに来られるよう着替えやタオルの貸出しなどの工夫をしている。
- 利用者の主体性を促し、ひろばは「みんなで子育てする場」であることを意識してもらうため、危険箇所チェックやひろばの片付けを利用者と一緒に行っている。
- 庭の整備やひろばの備品づくりなどを、地域のボランティアが担っている。子育て世代以外が関わる機会を設けることで、ひろばが「みんなで子育てする場」となっている。
- 利用者に交流がうまれるよう、季節の工作コーナーを設けたり、カフェコーナーを設置し、きっかけ作りをしている。
- 父親の居場所として定着してきている。今後は利用背景などをリサーチし、人材育成や地域ネットワークに生かせるよう検討していく。

2 多様な養育者や子どもが訪れるひろば

- 外国人スタッフ、多言語情報チラシ、多言語の絵本の配置し、拠点通信にふりがなを振るなど、外国人親子が来所しやすい工夫をした。その中から新たにひろばスタッフになるなど、支えあいのバトンが繋がっている。
- 育てにくさを感じている親子のミニひろば(にこポンテ)を別室で開催し、行き来も自由にできるようにしている。にこポンテのスタッフをひろばに配置したり、さまざまな子どもの育ちを考える啓発期間を設けた。
- 来所のきっかけになるよう、父親や多胎児、妊婦向けのプログラムを開催。特に妊婦向けのプログラムは、一般的に初産婦対象のものが多く、拠点利用者の要望から、第2子以降の妊婦向けプログラムを実施している。
- 遠くて来所の困難な地域では出張ひろばを地域の担い手とともにいった。

3 親も子も育ちあうひろば

- ルールを最小限にし利用者の気持ちに寄り添うひろば作りを心掛けている
- おもちゃの取り合いなどが起こった際には、親同士が見守りあえる雰囲気づくりをしている。
- 養育者のニーズから年齢別、悩み別プログラムを開催した。受け身型の講座でなく、親同士が共感し解決していけるよう工夫した。

評価の理由(区)

1 拠点の周知・利用のきっかけづくり

乳幼児健診や母子訪問などで拠点の役割や良いところを紹介した。「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」を乳幼児健診で実施したところ、拠点の認知度は82%であり、知るきっかけの72%が区の事業という結果だったことから、十分に周知及び利用のきっかけづくりができています。

2 利用者ニーズの把握

乳幼児健診で「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」を実施した。ひろばでの利用者アンケートと違い、認知度や利用しない人のニーズが把握できたので、今後の課題として拠点と話し合う。

3 多様な人を受け入れ、安心して過ごせる工夫

外国人利用者やサポートを必要とする親子への支援やひろばのあり方を拠点とともに検討した。危険箇所の共有をし、修繕など対応した。また、緊急時の連絡・対処の方法について、再確認した。

4 親育ち、子育ての場の支援について

拠点が各種講座を開催する際に講師を紹介したり、ひろばで実施する事業に保健師、保育士、保育・教育コンシェルジュが出向いたり、養育者に対して話をする機会を設けた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ボランティアとして、様々な世代がひろばに参加している。
- ・イベント型のプログラムを見直し、利用のきっかけづくりや利用者同士の交流につながる内容にしている。
- ・父親、外国人を含め、多様な養育者の利用が増え、親子の居場所として定着している。

(課題)

- ・区と拠点で「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」で把握した、利用しない人のニーズの分析を行い、継続的にすり合わせをする必要がある。

振り返りの視点

ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。

イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。

ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。

エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。

オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。

キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。

ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の問題解決やよりよい子育てを実現するために、拠点が受けた相談に対して区が支援を行うとともに、拠点と区役所での役割分担を確認することが必要。 拠点と区が、相談ケースについて密に連絡をとりあう関係を深めていくことが必要。 	A	B
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

【相談数】

	28年度	29年度	30年度
利用者支援事業 (延べ人数)	189	241	682
子育て相談事業 (延べ件数)	2,807	2,504	1,031
ひろば	769	645	631
専門相談	2,038	1,859	400

【専門相談日】(30年度実績)

保育士:6回/年
 保育・教育コンシェルジュ:6回/年
 助産師:12回/年

1 気軽に相談できる場であるための工夫

・気軽に多様な相談ができるよう、定期的に保育士、栄養士、助産師等による専門相談日を設け、拠点通信などで周知した。
 ・様々な子育て経験のあるスタッフを配置している。顔写真付きのスタッフ紹介を掲示し、わかりやすくした。
 ・名札ストラップの色でスタッフと話がしたいことを意思表示できるようにしている。また、相談場所としてひろばだけでなく、庭のデッキや個室等を選ぶなど、相談のハードルを低くするための工夫をしている。
 ・育てにくさを感じている親や、他利用者への気兼ねからひろば利用にためらいを感じる親子の居場所として、毎週1回、ミニサロン(にこポンテ)を別室で開催している。利用者同士の相談の場になっており、近隣の養護学校などの他機関と繋がる場にもなっている。親子の希望によってひろばと行き来が出来るようにしている。

2 ひろばスタッフが自信をもって相談を受けとめるために

ひろばスタッフが外部研修等を受講出来る機会を増やし、スキルアップに努めた。また受けた相談は、毎日の振り返りの中で共有し、対応に困った場合などにはすぐに他のスタッフに相談することができている。

3 関係機関とつながったあとも身近な相談の場であるために

区や関係機関との情報共有は、施設長及び子育てパートナーが定期的あるいはタイムリーに行っている。他機関とつながった後も拠点を利用する機会が多いため、他利用者の目線などに配慮しつつ、声掛けや寄り添いの姿勢を継続している。

4 区との連携及び役割分担

区と拠点で円滑な連携が図れるよう、拠点担当保健師へ一報を入れるなど、ルール作り及び役割分担を行った。また、毎月1回カンファレンスを行い、必要な時に情報共有している。

評価の理由(区)

1 相談しやすい仕組みづくりに対する検討

名札ストラップの取り組みについて、十分な話し合いの機会を設けることができなかった。

2 区と拠点の役割分担

母子手帳交付や母親教室等の妊娠期から、拠点が子どもを遊ばせながら、親の相談が受けられることを伝え、母子訪問や乳幼児健診等の産後の早い時期に積極的に周知した。

利用者の主な目的の2割程度は、相談のために利用しているという「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」の結果からも、十分に周知し利用につながっているといえる。

3 拠点が受けた相談に対する支援

ひろばスタッフの知識の取得のため、区職員による研修(児童虐待予防研修)や区で実施する講演会(小児救急講演会、アレルギー講演会)への参加を促すなどの声掛けを行った。

4 専門的対応が必要なケースの連携、連絡体制

毎月1回、拠点とカンファレンスを行い、必要な時に情報を共有している。所内では拠点担当保健師から地区担当保健師及びケースワーカーと情報を共有している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・区と拠点の連携が密になり、利用者に適切な対応ができている。
- ・様々な取り組みにより、ひろばスタッフの相談スキルが上がった。

(課題)

- ・名札ストラップの取組について検証し、改善する必要がある。
- ・スタッフのさらなるスキルアップを目指し、相手に寄り添う相談対応の向上を図る必要がある。

振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区からの情報提供方法を検討し、お知らせする情報の種類や内容を各課に広く周知し、収集する。 ・拠点のホームページ「子育て情報サイト」について、情報発信の手段を社会的ニーズに合わせて、代替えの手段を検討する。 ・拠点が情報発信する役割について、認識を深めて積極的に活用する。 	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A

評価の理由(法人)

【拠点が発行する子育て支援情報誌】

	部数	配布か所
拠点通信「おいでよ」	2,400部	160か所
瀬谷区子育て応援カレンダー	2,090部	94か所

【子育て応援マップ改訂のスケジュール】
30年度は8回編集会議(反省を含む)を開催

6月 : 第1回編集会議を開催

7月~9月: 取材、編集作業

10月 : 初稿

【子育てに関して知りたい情報】(複数回答)

「子どもの遊び場」56.6%

「子連れで入れるお店やイベント」55.2%

《瀬谷区子育てに関するアンケート調査結果》

1 子育て支援情報の収集・提供

- ・来所が困難な養育者には、ウェブページ・SNS・子育て応援イベントなど、様々な媒体や機会でも子育て支援情報を提供した。同地区の生活圏である近隣区及び隣接市の情報収集も意識して行った。
- ・利用者から要望が多かった幼稚園情報は、区と協力して拠点のスタッフで情報収集し、ひろばで閲覧できるように配架したところ、好評だった。
- ・地域別担当者及び情報専任担当者を設けたことで、よりきめ細やかな情報収集が可能となった。また、利用者へ適切な情報を提供できるようになった。
- ・子育て支援情報を集約した「瀬谷区子育て応援カレンダー」を作成し、養育者や担い手に配布した。
- ・拠点通信「おいでよ」を発行し、拠点のプログラムやタイムリーな話題を提供できるようにしている。
- ・ひろばでは利用者のニーズに沿った情報が入手しやすいよう、地域を色別に分けて掲示した。転入者に有用な子育て情報をまとめ「引っ越しパック」として提供したり、外国人親子向け多言語情報を整備するなどの工夫した。
- ・親と子のつどいの広場と合同で妊婦向けプログラムをまとめたチラシを作成し、両親教室や産院などでも配布した。

2 「せや子育て応援マップ」の作成

- ・養育者のニーズにあわせ、子育て親子のおでかけ情報をまとめた「子育て応援マップ(ぐるっとなび)」を作成した。「子どもの遊び場」や「子ども連れで入れるお店やサロン」をまとめ、養育者や担い手に広く配布した。
- ・子育て応援マップの取材・編集活動は親と子のつどいのひろばスタッフ8名、マリポーター20名と共に行い、養育者や地域に詳しい担い手の目線を活かした。改訂作業も意見交換の場を設け、一緒に行っている。
- ・子育て応援マップの配布をきっかけに、新たな子育てサービスを考える店舗や施設が出てきた。

3 子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることを周知

- ・瀬谷区子育て応援ネット、瀬谷区拠点連絡会など、子育てに関するネットワークを通じ、情報収集・提供機能について周知を行った。
- ・子育て応援イベントや子育て応援マップをきっかけに、幼稚園や近隣店舗などで拠点の情報収集・提供機能について理解が進み、相互協力につながった。更なる対象の拡大を図る必要がある。

4 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みづくり

- ・子育て応援マップ取材・編集活動は、地域に詳しい担い手やママの目線を活かした。改訂作業も意見交換の場を設け、一緒に行っている。
- ・利用者や地域の担い手が気軽に情報交換できる「みんなで子育て掲示板」を拠点入り口に設置し、活用を働きかけた。
- ・利用者同士の情報交換の場として、引っ越しプログラムや子育てサークルPRタイム、幼稚園口コミタイムの場を設けた。
- ・拠点通信「おいでよ」では特集記事として外国人ママのインタビューを行い、文化の違う子育てを紹介した。

評価の理由(区)

1 拠点の情報収集、提供への協力

区役所各課を含めた子育て情報を拠点に提供、子育て応援カレンダーの発送作業に協力した。また、養育者のニーズの多い幼稚園情報を提供するため、保育・教育コンサルジュが協力して、拠点担当者とともに園訪問を行った。

2 情報収集、提供の企画への養育者の関わり

子育て応援マップの編集会議に出席し、取材へ同行した。また、他の自治体や土木事務所など、庁内関係課との調整を担当し、校正確認に協力した。子育て応援マップは養育者自らの目線を活かして作成した趣旨を説明し、区の事業で積極的に配布している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・養育者や地域に詳しい担い手の目線を生かした、子育て応援マップ(ぐるっとなび)を作成し、配布したことで、乳幼児の外出に必要な情報をひとつにまとめて発信することができた。また、取材や配架をとおして、区内の商業店舗等の子育て支援への意識が向上した。

・利用者のニーズの高い幼稚園情報を区と拠点が協力して収集し、いつでも見られるように、ひろばに配架した。

(課題)

・子育て応援マップについては、養育者へのアンケートなどを実施して、利用者目線で更新・改訂を行う必要がある。

・拠点が情報収集・提供の窓口であるということを、関係機関により広く周知する必要がある。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。

イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。

ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。

エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。

オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。

カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。

キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援ネットは拠点開設前から運営されていた。今後は養育者や子育て支援者のニーズにあわせた、当事者性のあるネットワークにすることも含め、あり方や目指すべき姿を区と拠点で検討していく必要がある。 ・子育てサポートシステム事業や利用者支援機能が追加されることも見据えて、ネットワークについて地域や子育て支援関係者などとの連携を強化していく必要がある。 	B	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	B
評価の理由(法人)			
<p>【瀬谷区子育て応援ネット】 拠点と区が事務局を担い、区内の子育て支援団体で構成している。地域で安心して子育てできる環境づくりをめざしている。 全体会：1回/年、地域別ブロック連絡会：3回/年(ブロックによっては取組に向け、準備会を開催。)</p> <p>【瀬谷区拠点連絡会】 親と子のつどいの広場(4か所)、育児支援センター園(中屋敷保育園)、地域子育て支援拠点の6団体で、情報共有や課題について相談する場を設けている。</p> <p>【瀬谷区子育て応援イベント(30年度)】 地域ケアプラザ・区内保育園・親と子のつどいの広場等、有志の実行委員会形式で運営している。 11月 瀬谷区二ツ橋公園(区役所前)で開催。 出店：19団体、パフォーマンス：5団体、情報提供：62団体 来場者数：262組、650人</p> <p>【プレママ合同チラシ】 地域子育て支援拠点と親と子のつどいの広場(4か所)が、合同で妊娠中の両親を対象としたプログラムをまとめたチラシを発行している。</p>			
<p>1 子育て家庭や子育て支援者の連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内の子育て支援団体等で構成される、「瀬谷区子育て応援ネット」の事務局を区とともに担い、育児支援者同士の情報交換や課題の共有を行っている。地域で安心して子育てできる環境づくりを推進するため、地域別ブロック連絡会(4か所/年3回)や全体会、子育て応援イベントを実施した。 ・30年度の瀬谷区子育て応援ネット全体会に向けて、地域で活動している子育て当事者にアンケートを実施。当日は地域の活動に参加するまでの過程を直接話してもらう場を設けた。 ・地域との関係づくりに、拠点スタッフ全員で取り組んだことで、拠点事業全体の認知が広がり、子育てサポートシステムの利用や利用者支援事業につながった。 ・瀬谷区拠点連絡会では、子育て支援に関わる情報交換や勉強会、子育て応援イベント参加、「プレママ合同チラシ」作成などを行った。 ・民生委員・児童委員協議会及び地域の子育て支援団体と協力し、瀬谷区子育て応援イベントを開催した。拠点スタッフ全員が運営に携わったことで、普段関わりの少ない機関や商業店舗とつながる事ができた。また、子育て支援団体同士がイベントを通じて知りあい、つながる場となったことで、新たな活動がうまれた。 ・地域住民や養育者の声を関係機関と共有し、子育て資源の少ない地域で出張ひろばを開催した。その後も、地域住民による親と子のつどいのひろば開設を関係機関と連携して支えた。 <p>2 ネットワークを活かし身近な子育て支援の場へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬谷区子育て応援ネット、拠点連絡会等を通じて、情報集約を行い、イベントカレンダーやプログラムチラシを作成・配布することで、拠点利用者を身近な子育て支援の場につなげた。 ・出張ひろばに参加した外国人養育者が拠点スタッフとなり、外国人家庭を支える中心メンバーになっている。 ・スタッフに地域担当制を設け、子育て応援ネットに参加した。また、広報誌の取材を兼ねて地域の子育てサロンや子育てサークルに出向いて関係づくりを行い、そこで得た情報を拠点利用者に伝え、地域の活動につなげた。 			
評価の理由(区)			
<p>1 ニーズ把握、連携促進について 親と子のつどいの広場や拠点スタッフに地域育児教室等(赤ちゃん教室)への参加を促し、養育者の意見を聴く機会を設けた。また、区職員が拠点のひろばや子育て支援者の会場に足を運び、ニーズ把握を行った。</p> <p>2 瀬谷区子育て応援ネット ブロック連絡会の開催 事務局として拠点と協力し、瀬谷区子育て応援ネット地区別ブロック連絡会開催に向けて、地域ケアプラザと協議・調整を行った。</p> <p>3 養育者と地域がつながるきっかけづくり 区内の子育てに関わる団体とともに開催する「瀬谷区子育て応援イベント」開催に向けて、拠点が中心となって関係団体と連携できるよう、進捗管理・調整を行った。</p>			

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・区と拠点で協力して、瀬谷区子育て応援ネットブロック連絡会を運営したことで、地域の子育てに関する課題に向き合う機会をつくることができた。
- ・子育て応援イベントを通じて、関係者同士が知り合い、新たな活動につながった。

(課題)

- ・子育て支援団体や担い手同士のネットワークは構築されてきたが、地域活動を主体的に行っている子育てに関わりが薄い層と養育者との関係づくりを働きかける必要がある。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。
- イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の親子サークルへの聞き取りの結果、次期サークルリーダーについての不安が聞かれた。自主性育てや、世代交代への支援が必要。 ・自主的に活動する養育者層を拡大し、担い手を育成するため、区社協など地域資源との連携なども考えられるのではないかと。 ・地域とのつながりづくりについて、区も支援する必要がある。区連会や民児協でのPRなど。 	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B

評価の理由(法人)

【ボランティア参加人数】 (延べ人数)

28年度	29年度	30年度
231	468	445

【子育てサークルリーダー研修】(2回/年)

- ①支援者向け:区の子育て支援の取組み紹介や子育て支援者の知り合う機会として、区と拠点が協力して開催。(参加人数:50人(従事者含む))
- ②当事者向け:毎年、当事者及び支援者を対象に関心の高い内容を区と拠点で検討し、講演会を開催。(30年度は「イヤイヤ期」を上手に乗り切る

1 地域子育て支援活動の活性化

- ・子育て資源の少ない地域において、地域住民からの要望を受け止め、区やケアプラザと協力し、出張ひろばを実施した。これをきっかけに常設の親と子のつどいの広場が開設されることになり、拠点としても立ち上げや、運営の支援を行った。
- ・スタッフにボランティア担当を設け、ボランティア希望者の活動時間や得意なことなどを丁寧に聞き取り、個々に合った活動に繋げた。区社会福祉協議会や地域ケアプラザなどの周辺施設と連携し、祖父母世代や学生ボランティアの活躍の場となっている。
- ・子育て支援関係者のモチベーションを高めるための学習会を開催した。
- ・スタッフのスキルアップのため、親と子のつどいの広場との連絡会で、保育制度や虐待対策の学習会を行った。

2 養育者の活動参加

- ・子育てサークルリーダー研修を区とともに実施した。(2回/年)。また、拠点のウェブページに子育てサークル紹介コーナーを開設したり、サークルのPRのため、ひろばでの公開活動の場を提供したり、活動が継続できるよう支援した。
- ・就学後も拠点に協力したいという利用者を、玩具製作等のボランティアや、拠点で活動する子育てサークルをサポートする人材となるよう支援した。
- ・養育者とともに、子育て応援マップを作製するにあたり、親と子のつどいの広場と協力し、ママリポーターを募った。子ども連れでも参加しやすいよう環境を整えたり、活動するうえで生じる、不安感や悩みを丁寧に聴き、活動が継続できるよう支援した。
- ・外国人養育者が、地域で担い手として活動する必要性を感じる気持ちを受け止め、拠点スタッフとして活動ができるよう働きかけた。また、防災ネットワークのメンバーになり、災害対応等の研修を受け、外国人養育者に向けた外国語の救命講座を行った。

3 子育て家庭を温かく見守る地域の雰囲気づくり

- ・子育て家庭や、これから赤ちゃんを迎える家庭を応援する雰囲気が高まるよう、民生委員児童委員協議会と子育て応援イベントを開催した。民間企業などの参加団体も増えている。
- ・子育て応援マップを養育者だけでなく、地域の店舗や病院等に直接配付したことで、地域の子育て家庭を見守る雰囲気作りに繋がっている。
- ・様々な育ちについて理解が深まるよう、近隣の養護学校の紹介や生徒の作品展を実施した。

4 これから子育て当事者となる市民との関わり

- ・区内の高校の生徒が拠点に来所し、赤ちゃんとのふれあい体験を実施した。また、区内の小中学校の職業体験の受け入れも行っている。
- ・近隣学校(小・中・養護・特別支援)の生徒がボランティアとして活動を行った。個々に合わせたボランティアメニューを提示し、終了後には証明書の発行と共に感謝状を渡し、活動意欲や達成感につながるよう支援した。
- ・看護学生や社会福祉職を目指す学生の実習の受け入れを行った。
- ・里親スキルアップ研修を実施。ひろばで実際に赤ちゃんと接する機会を設け、各区の子育てパートナーと繋げた。

評価の理由(区)

1 活動意欲の向上やスキルアップへのきっかけづくり

子育てグループ支援について、子育て支援者等と連携しながら取り組んだ。また、子育てサークル交流会の企画・運営を拠点と協力し実施した。

2 新たな担い手の発掘・養成に繋がる活動への支援

子育てに関する勉強会の内容について、相談・調整を行った。また、子育て応援マップ(ぐるっとなび)の作成を拠点に委託したことで、養育者がマップ作りに参加するなど、担い手になるきっかけに繋がった。区担当者も、編集会議へ参加したり、取材へ同行したり、他市や公園管理の所管課と調整するなど、活動支援を行った。

3 広く区民に対する周知

子育て応援イベントの実施に向けた準備や調整などの支援を行った。また、広報よこはま瀬谷区版で子育て支援について広く区民に周知した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・子育て応援マップの作成を通して、養育者が地域の子育て支援について、意識を向けられるようになった。
- ・外国人養育者や就学後の養育者が活動出来るよう支援したことで、新たな担い手となった。
- ・ボランティア担当者を設け、地域と連携したことで、ボランティアが拠点で活動できるようになった。

(課題)

- ・子育て支援に関わる機会が少ない地域活動者へのアプローチについて検討する必要がある。
- ・複合館のメリットを活かした、多世代のつながりづくりを、今後さらに進める必要がある。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。

イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。

ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。

エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。

オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。

カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。

キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。

ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。

ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	B	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。	B	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。	B	A

評価の理由(法人)

【会員数】	(人)		
	28年度	29年度	30年度
利用会員	104	174	173
提供会員	35	53	47
両方会員	17	29	24

【「子サポ通信」発行回数】	(回)		
	28年度	29年度	30年度
	2	3	6

【区内小学校へのチラシ配付数】

29年度:5,500枚(在校生全員)

30年度:1,100枚(新入生のみ)

【プログラムでの活動実績】	(延べ人数)	
	29年度	30年度
回数	30	10
参加人数	48	14

1 子育てサポートシステムを区民に知ってもらうために

- ・区支部移管にあたり、自治会町内会、地域ケアプラザ等の各関係機関に訪問し、地域の回覧や掲示板で周知ができるよう依頼した。
- ・入会説明会の案内を子育て関係機関に発送した。また、広報よこはま瀬谷区版や区社会福祉協議会が発行する広報誌にも掲載した。
- ・区内小学校(11校)の入学説明会等でチラシを配付したことで、会員登録に繋がった。
- ・地域育児教室(赤ちゃん教室)に向向き、子育てサポートシステムについて周知した。
- ・拠点のウェブページに子育てサポートシステムの情報を掲載し、定期的に更新している。

2 利用しやすい働きかけ

- ・ひろばでのプログラム等で周知を行った。また、「ひろばdeおためし子サポ」(月1回)を実施し、ひろば利用者が実際に活動を目にしたたり、サポート終了時に提供会員の紹介をしたことで、事業への理解が進み、利用に繋がった。
- ・コーディネーターが目印となる青いポロシャツを身に着けることで、ひろば利用者にわかりやすくなった。
- ・出産直後など、拠点に向くことが難しい利用者に対しては、個別の出張入会説明会を実施しサポートに繋がった。

3 活動の継続に向けての働きかけ

- ・区支部移管の際、提供会員全員に電話で説明を行い、ニーズを聞き取り、活動の継続に繋がった。
- ・「ひろばdeおためし子サポ」の曜日を毎月変えて実施したことで、利用会員・提供会員ともに体験しやすくなった。
- ・両会員から、コーディネーターやサポート後に聞き取りをし、活動の把握を丁寧に行った。また、依頼があった時だけでなく、意識的に連絡や声かけを行い活動につながるよう、個々の状況把握を実施している。
- ・拠点でのプログラム実施時に、提供・両方会員の研修と活動の機会を作った。
- ・全会員に向けて「子サポ通信」を定期的に発行し、個人情報保護の啓発や活動に役立つ情報を発信した。

4 拠点事業や他機関との連携

- ・ひろばの新規利用者には必ず子育てサポートシステムの説明を行った。ひろばスタッフが利用者のニーズを聞き取り、コーディネーターに繋がった。
- ・相談の内容に応じて、利用者支援事業と相談事業と連携を図っている。また、一時預かりや子育てタクシー等の紹介やサポートに努めている。
- ・外国人同士の見守り合いが進むよう、地域の通訳翻訳グループと協力して入会説明会資料の多言語化を行っている。

評価の理由(区)

1 提供拡大及び周知活動について

家庭訪問や地域育児教室(赤ちゃん教室)等で周知するだけでなく、拠点が地域の会議へ参加できるよう調整した。また、区内小学校に依頼し、チラシを全家庭に届くよう効果的に配付した。

2 利用のきっかけづくりについて

乳幼児健診会場等で就労に関わらず、リフレッシュ等で利用できることを周知した。

3 拠点との協力体制について

コーディネーターの聞き取りの際、専門的対応が必要な相談については、助言及び協力を行った。活動に繋がらない理由について、区と拠点で検討したが、改善に至らなかった。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・コーディネーターが会員に丁寧なサポートをしていることで、提供・両方会員が継続し、安定した活動につながっている。
- ・区内の小学校でチラシを配付したことで、幅広い層への周知につながった。

(課題)

- ・利用が増えていないことについて、具体的な方法を検討し改善する必要がある。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	自己評価(A～D)	
	法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	A	A

評価の理由(法人)

【認知度】(瀬谷区子育てに関するアンケート)

相談した	8%
相談したことがない	43%
知らない	48%
相談しない理由	
「他に相談できる人がいる」が一番多かった	

【相談数】

	28年度	29年度	30年度
利用者支援事業 (延べ人数)	189	241	682
子育て相談事業 (延べ件数)	2,807	2,504	1,031
ひろば	769	645	631
専門相談	2,038	1,859	400

1. 区民に広く認知されるための工夫と仕組み作り

- ・拠点通信やチラシ、名刺サイズカードを活用し周知に努めている。また、関係機関に周知を行ったことで、子育てパートナーの相談につながった。
- ・拠点の来所利用が難しい地域については、区内の親と子のつどいの広場の協力を得て、区内4か所を順番に、毎月出張相談に出向いている。

2. 個別相談対応

- ・支援について決定するのは相談者自身であることを伝えたくて、選択肢を提示している。
- ・個別相談の後、継続的にひろばが利用できるよう、ひろばスタッフと連携している。
- ・SOSが出しにくい養育者には、必要な情報の提供や関係機関との連携・仲介を行っている。

3. 情報収集・整理の工夫と活用

- ・相談で利用する情報は、提供しやすいよう、テーマ別に整理し、最新の情報に更新している。
- ・子育てパートナーに相談が多い幼稚園の情報を収集するため、区内全園を訪問し、情報提供についての理解を得ることが出来た。

4. 地域の社会資源との協働の関係づくりと課題の明確化

- ・地域の関係機関(区役所、地域ケアプラザ、学校など)が開催する会議に出席し、関係強化に努めた。また支援の際には、それぞれの活動や課題の理解、共有を図った。
- ・区と連携する相談者の支援については、カンファレンスにて関係機関との情報共有、役割分担を確認している。
- ・外国人養育者に対しては、ベトナム人・中国人スタッフまたは地域の通訳翻訳グループの協力を得て対応した。
- ・拠点担当保健師とは、毎月1回カンファレンスを行っている。必要時には電話または区役所や拠点でタイムリーに情報共有している。

評価の理由(区)

1 利用者支援事業の周知

乳幼児健診や赤ちゃん教室等の事業で周知を行った。子育てパートナーを周知するカードを区の窓口近くに配架した。また、こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会議や主任児童委員の会議等に出席できるよう調整を行った。

2 拠点の相談業務への支援

区と拠点で相談事例のカンファレンスを行い、情報共有や助言等を行った。対応困難ケースなど、必要に応じて子育てパートナーにカンファレンスへの出席を依頼し、情報及び支援方針を共有した。

3 地域の機関と協働の関係づくり

子育てパートナーと幼稚園の連携をつくるために、準備をし、訪問に同行した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・子育てパートナーの周知が進み、利用者支援事業と相談事業の連携が図られたことにより、利用者の相談に適切に対応することができた。

・地域の関係機関に積極的に足を運ぶことで、関係をより強化した。

(課題)

・まだ関係が構築されていない機関への周知を引き続き行う必要がある。

振り返りの視点

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。

エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。

オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。

また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。

カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。

キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。

ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。

ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。

コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・前年度の振り返りを翌年度の計画に反映することができた。
- ・新たな取り組みの計画段階で、十分な話し合いができていなかったため、認識の違いがあるまま事業が進んでしまった。
- ・外国人養育者への支援や人材育成について、拠点の強みを活かし取り組んだ。
- ・個別事例の対応について、役割分担や連携態勢について、十分な話し合いができていなかった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・人事異動等による担当者変更の際に、課題や反省点の引継ぎが確実にされるようにする必要がある。
- ・個別事例の対応や拠点のあり方について、話し合いを重ね、相互理解を深める必要がある。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・毎月の定例会で各事業について話し合いをしたことで、認識の違いを共有し、改善方法について話し合うことができた。
- ・講演会やイベントの開催について、担当や職種に関わらず、全員で協力して実施することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・お互いの繁忙もあり、計画段階及び実施段階中の丁寧な話し合いが難しかった。定例会だけでなく、ひとつの事業に対して、集中的に話し合う時間を確保する必要がある。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・それぞれの事業について、成果や課題を共有することができた。
- ・拠点と区のそれぞれの強みを理解することができた。認識の違いも明らかになり、今後の課題を見つけることができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・次年度の目標設定や事業計画を具体的に検討していく必要がある。
- ・拠点機能のあり方や果たすべき役割を再認識する必要がある。
- ・引き続き、各事業の振り返りの際、丁寧に成果と課題を共有する必要がある。

運営法人の選定方法等について

1 運営法人の選定

原則として、運営法人を公募し、応募した法人の中から選定を行います。

2 運営法人選定委員会

運営法人を選定するにあたっては、横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会を設置し、意見を聴きます。

なお、選定委員会は条例に定められた附属機関に位置づけられたことにより、公開が原則となります。ただし、第1回は公開としますが、第2回は応募法人の経営状況や運営体制等に委員が言及する可能性があるため非公開とします。

3 選定委員会の担当事務

運営法人に応募をした法人について、運営法人選定基準に基づき審議します。

審議にあたっては、応募法人の提出書類を審査、評価するとともに、ヒアリングを実施し、その内容を評価します。

4 運営法人の選定基準

運営法人の選定については、次に掲げる事項等を総合的に判断して行います。

- ①乳幼児の養育者のニーズを適切に把握、理解し、これらの者への交流の場の提供、子育てに関する相談並びに子育てに関する情報の収集及び提供等の支援を通じて、養育者の育児不安等の解消、育児力の向上を効果的に図ることができる法人であること。
- ②地域において子育てに関する支援活動を行う者（以下「活動者」という。）との連携を図り、これらの活動を活性化させるとともに、地域のニーズを踏まえた活動者の育成、支援を行うことで、子育てを地域全体で支援する地域力の創出が図れる法人であること。
- ③地域子育て支援拠点事業の趣旨について十分理解し、事業運営について適切な事業提案を行っているとともに、継続して安定した事業運営が見込まれる法人であること。
- ④事業運営にあたって、区福祉保健センター等の関係機関との連携、協力が図れる法人であること。

5 評価の方法

資料5-1 「評価指標の点数のつけ方について」

資料5-2 「選定委員会 評価指標」

資料6 「提出書類一覧・提案書類様式」 を参照

6 運営法人の決定

選定委員会における評価結果を瀬谷区業者選定委員会に提出し、審議を経て運営法人を決定します。

7 その他注意事項等

選定委員会への委員の代理出席は認められません。

選定のうで知り得た団体や個人に関する情報を外部に漏らさないようご留意いただきますようお願いいたします。

8 瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人選定スケジュール

日 程	手 続 等
令和2年9月15日（火）	法人募集実施の公表 （瀬谷区ホームページ掲載）
令和2年9月18日（金）	法人募集説明会
同 9月18日（金） ～9月28日（月）	参加意向申出書の提出
同 10月5日（月）	参加資格確認結果通知書 申請関係書類提出要請書の通知
同 10月6日（火） ～10月13日（火）	質問書受付期間
同 10月20日（火）	質疑の回答（瀬谷区ホームページ掲載）
同 10月21日（水） ～10月28日（水）	提案書の受付
同 11月9日（月）	第1回運営法人選定委員会 ※会議公開 （地域子育て支援拠点事業の概要、選定手順、 評価指標の説明）
同 11月13日（金）	提案書類を選定委員あて郵送
同 11月24日（火）	第2回運営法人選定委員会 ※会議非公開 （プレゼンテーション、質疑、評価）
同 12月21日（月）	選定結果通知

評価指標の点数のつけ方について

●全体の流れ

- ・応募者からの申請書類一式及び評価指標の様式を各選定委員へ送付します。(選定委員会終了後)
- ・各選定委員には、第2回選定委員会までに申請書類を読んでいただき、各応募者の提案内容について評価指標をもとに粗評価を行っていただきます。
- ・第2回選定委員会で、応募者のプレゼンテーション、ヒアリングを行います。各選定委員は、プレゼンテーション、ヒアリングの内容をもとに、必要に応じて、事前に作成しておいた粗評価の修正を行い、評価を確定します。
- ・各選定委員の評価点数を合計し、応募者ごとの総合評価点数を算出します。

●評価点数のつけ方

- ①「判断材料」に記載されている、応募者からの提出書類と委員会当日のプレゼンテーション及び質疑応答をもとに、各選定委員が応募者の提案内容について評価していきます。
- ②「基準」をもとに、評価(基礎点)をつけていきます。基礎点は5点:特に優れている、4点:優れている、3点:標準的な水準にある、2点:やや劣っている、1点:劣っている、となります。評価(基礎点)×重要度の値が最終的な各項目の評価点数となります。

※評価をつける「基準」の文言には、「優れている」「劣っている」などの表現がありますが、選定委員が提案書類を読み、主観で判断し、評価していただいてもかまいません。そのため、子育て支援や地域子育て支援拠点事業について理解があり、適切な評価をつけられるであろう選定委員を選ぶようにしてください。

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
1 基本的事項	(1)子育て支援に対する理念、取り組み状況	子育て支援への理念や取り組みが優れているか			(30)	提出書類 様式Ⅱ
		法人の子育て支援の理念や考え方	5・4・3・2・1	×1	10	
		本市の子育て家庭のニーズや課題に関する考え方	5・4・3・2・1		10	
		子育て支援関連事業の経験・実績	5・4・3・2・1		10	
	(2)地域子育て支援拠点運営理念	地域特性を踏まえた地域子育て支援拠点の運営理念が優れているか				(30)
		地域子育て支援拠点の運営理念	5・4・3・2・1	×1	10	
		児童福祉法に基づいた社会福祉事業であることを踏まえた、拠点事業運営の考え方	5・4・3・2・1		10	
	区の地域特性、子育て環境、ニーズを踏まえた、拠点事業運営の考え方	5・4・3・2・1	10			
	(3)経営方針等	経営方針及び職員採用、育成に対する考え方が優れているか			(30)	様式Ⅲ -2 Ⅲ- 3 Ⅲ-4
		経営効率、費用対効果を高める取組についての考え方や計画	5・4・3・2・1	×1	10	
拠点の運営理念や事業計画を踏まえた、職員採用・配置の計画		5・4・3・2・1	10			
職員の育成、研修体制についての考え方や計画		5・4・3・2・1	10			

● 評価指標の内容

・ 全体の構成

「1 基本的事項」、「2 事業計画」、「3 管理運営」「4 財務状況等【事務局評価】」の3項目から構成されています。「2 事業計画」については、地域子育て支援拠点の7機能についてそれぞれ評価していきます。各項目の「基準」の内容は、協働協定書別紙（役割分担表）の「目指す拠点の姿」に基づいています。

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
2 事業計画 (1)親子の居場所について	居場所の場づくり、子育て支援ニーズの把握、また、交流促進等に対する考え方が優れているか				(25)	様式Ⅲ -5①Ⅲ -6
	利用者を温かく迎え入れる場づくり	5・4・3・2・1			5	
	多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場づくり				5	
	養育者と子どものニーズ把握のための工夫	5・4・			5	
	親自身が親として育ち、また子どもが育つ場としての環境づくり等	5・4・3・2・1			5	
	「7事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5			5	

目指す
拠点の姿

・ 「3 管理運営 (1) 事業内容の質の確保・向上に関する考え方について」

当該評価項目については、局モデルでは重要度を2倍に設定しています。施設運営にあたり、個人情報の取り扱いや、事故防止等に対する取組や考え方は重要であるということと、5年間、協働事業として区と運営法人がともに連携して取り組んで事業を実施するにあたり、区との協働や連携に対する考え方が非常に重要であると考えためです。

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
3 管理運営 (1)事業内容の質の確保・向上に関する考え方について	区役所との協働、利用者意見の把握、個人情報保護管理、リスクマネジメントの考え方が優れているか				(40)	様式Ⅲ -7 Ⅲ-5① の5
	区役所との協働、連携に対する考え方	5・4・3・2・1			10	
	利用者意見、要望の把握、対応方法	5・4・3・2・1			10	
	個人情報保護等情報管理についての計画	5・4・3・2・1			10	
	事故防止等のリスクマネジメントについての計画	5・4・3・2・1			10	

・各項目にある、「事業評価シートを踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。」(加点5点)について

地域子育て支援拠点事業は、事業評価において区と現運営法人の取組状況を確認するとともに、成果と課題を整理し、公表しています。次期5か年度の運営法人が変わった場合でも、それまでの拠点事業としての取組が断ち切られないように、取組内容を引き継ぐ上での提案を行う法人を選定する必要があります。特に、人材育成やネットワークの機能については、地域とのつながりづくりや、人材を発掘し、育てていく等、時間をかけて醸成されていくものであるため、それまでの積み重ねを生かして実施することが求められます。

そのため、提案内容が事業評価を踏まえていると判断される場合は5点加点することとしています。

※当該項目は現運営法人だけが加点されるわけではありません。

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
2 事業 計画	(1)親子の居場所について	居場所の場づくり、子育て支援ニーズの把握、また、交流促進等に対する考え方が優れているか			(25)	様式Ⅲ -5①Ⅲ -6
		利用者を温かく迎え入れる場づくり	5・4・3・2・1	×1	5	
		多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場づくり	5・4・3・2・1		5	
		養育者と子どものニーズ把握のための工夫	5・4・3・2・1		5	
		親自身が親として育ち、また子どもが育つ場としての環境づくり等	5・4・3・2・1		5	
		「7事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		5	

・「4 財務状況等 (1) 財務状況」 ※第2回選定委員会で記入していただきます※

応募法人の財務状況については、安定的な事業実施が可能であるかを判断するにあたり専門的知識を必要とするため、中小企業診断士に財務分析を依頼しています。中小企業診断士による分析結果(点数)をもとに、評価をつけていきます。この項目については、1応募法人に対する各選定委員の点数は必ず同じになるため、財務分析結果をもとに事務局が評価を行います。

また、当該評価項目については、局モデルでは重要度を2倍に設定しています。これは、法人の財政基盤が重要であると考えためです。

・「4 財務状況等 (2) ワークライフバランスに関する取組、(3) 障害者雇用に関する取組」

ワークライフバランスに関する取組及び障害者雇用に関する取組について、法律推進を行うため、横浜市委託に関するプロポーザル方式運用基準に則り、評価得点への加点を行っています。この項目についても、1応募法人に対する各選定委員の点数は必ず同じになるため、評価申請された提出書類をもとに事務局が評価を行います。

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料	
4 財務状況等 【事務局評価】	1)財務状況 (安定的な事業実施が可能な財務状況であるか)	財務分析結果が36点以上である	8	× 2		16	財務分析結果
		財務分析結果が28点以上36点未満である	5				
		財務分析結果が20点以上28点未満である	3				
		財務分析結果が20点未満である	0				
	2)ワークライフバランスに関する取組	①従業員101人未満であり、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画が策定されている(※計画期間内であること)	いずれかに該当する場合は1点加点			8	提出書類
		②従業員301人未満であり、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画が策定されている(※計画期間内であること)	いずれかに該当する場合は1点加点				
		③次世代育成支援対策推進法による認定(くるみん、プラチナくるみん)がされている	いずれかに該当する場合は2点加点				
		④女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく認定(えるぼし)がされている					
		⑤青少年の雇用の促進等に関する法律に基づくユースエール認定がされている	いずれかに該当する場合は2点加点				
		⑥よこはまグッドバランス賞の認定がされている(※認定期間(1/1~12/31)内であること)					
3)障害者雇用に関する取組	⑦従業員45.5人以上であり、障害者雇用促進法に基づく法定雇用率2.2%を達成している。	いずれかに該当する場合は2点加点					
	⑧従業員45.5人未満であり、障害者(1週間の所定雇用時間が20時間以上で、1年以上継続して雇用される者(見込みを含む))を1人以上雇用している。						

●評価の際の注意点

プロポーザル取扱実施要綱により、各選定委員は独立して提案者の提案の優劣を判定することになっており、提案書及びヒアリングに基づく各提案者の優劣については、審議しないように努めることになっていますので、ご注意ください。

参考：横浜市委託に関するプロポーザル実施取扱要綱（抜粋）

（評価委員会の審議）

第15条

第2項

評価委員会の各評価委員は、提案書及びヒアリングを実施した場合における提案者の提案の内容により、評価基準に基づき、独立して提案者の提案の優劣を判定し、評価委員会は、各評価委員の判定に基づく採点の合計点により提案者の中から一位の者を決定するものとし、それ以外の事由を加えて合計点の修正等を行ってはならない。

第3項

評価委員は、評価委員会での審議において、評価の着眼点、評価項目及びそのウエイト、評価基準について確認をすることができる。ただし、提案書及びヒアリングに基づく各提案者の優劣については、審議しないように努めなければならない。

横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点 運営法人選定委員会 評価指標

●評価基準 5:特に優れている 4:優れている 3:標準的な水準にある 2:やや劣っている 1:劣っている

●評価点数 = 評価 × 重要度

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料
1 基本的事項	子育て支援への理念や取り組みが優れているか				(30)	提出書類 様式Ⅱ
	(1)子育て支援に対する理念、取り組み状況	法人の子育て支援の理念や考え方	5・4・3・2・1	×2	10	
	本市の子育て家庭のニーズや課題に関する考え方	5・4・3・2・1	10			
	子育て支援関連事業の経験・実績	5・4・3・2・1	10			
	(2)地域子育て支援拠点運営理念	地域特性を踏まえた地域子育て支援拠点の運営理念が優れているか			(30)	様式Ⅲ-1
	地域子育て支援拠点の運営理念	5・4・3・2・1	×2	10		
	児童福祉法に基づいた社会福祉事業であることを踏まえた、拠点事業運営の考え方	5・4・3・2・1		10		
	区の地域特性、子育て環境、ニーズを踏まえた、拠点事業運営の考え方	5・4・3・2・1		10		
	(3)経営方針等	経営方針及び職員採用、育成に対する考え方が優れているか			(30)	様式Ⅲ-2 Ⅲ-3 Ⅲ-4
	経営効率、費用対効果を高める取組についての考え方や計画	5・4・3・2・1	×2	10		
拠点の運営理念や事業計画を踏まえた、職員採用・配置の計画	5・4・3・2・1	10				
職員の育成、研修体制についての考え方や計画	5・4・3・2・1	10				
2 事業計画	(1)親子の居場所について	居場所の場づくり、子育て支援ニーズの把握、また、交流促進等に対する考え方が優れているか			(25)	様式Ⅲ-5① Ⅲ-6
	利用者を温かく迎え入れる場づくり	5・4・3・2・1	×1	5		
	多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場づくり	5・4・3・2・1		5		
	養育者と子どものニーズ把握のための工夫	5・4・3・2・1		5		
	親自身が親として育ち、また子どもが育つ場としての環境づくり等	5・4・3・2・1		5		
	「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		5		
	(2)子育て相談について	子育て相談に関する考え方が優れているか			(30)	様式Ⅲ-5② Ⅲ-6
	気軽に育児に関する相談ができるよう実施方法	5・4・3・2・1	×1	5		
	養育者の相談内容に応じた、関係機関との連携、継続した支援についての考え方	5・4・3・2・1		5		
	相談におけるプライバシーへの配慮についての考え方	5・4・3・2・1		5		
	子育て相談における職員の役割や相談対応にあたっての基本姿勢についての考え方	5・4・3・2・1		5		
	拠点での相談ならではの強み(専門職集団ではない強みや当事者性)に関する考え、大切にしたい姿勢	5・4・3・2・1		5		
	「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		5		
	(3)子育てに関する情報の収集及び提供について	子育てに関する情報の収集及び提供についての考え方が優れているか			(20)	様式Ⅲ-5③ Ⅲ-6
	区内の子育てや子育て支援に関する情報を集約・提供するための方法	5・4・3・2・1	×1	5		
	子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることを、区民に認知してもらうための方法	5・4・3・2・1		5		
	拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わるための方法	5・4・3・2・1		5		
	「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		5		
(4)地域団体等との連携・交流について	子育てに関する支援活動を行う人・組織等との連携・交流に関する考え方が具体的であり、優れているか			(40)	様式Ⅲ-5④ Ⅲ-6	
子育てに関する支援活動を行う人・組織等との連携	5・4・3・2・1	×2	10			
ネットワークを活かして、地域の情報を収集するための方法	5・4・3・2・1		10			
ネットワークを活かして、利用者を地域へつないでいくための方法	5・4・3・2・1		10			
「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		10			

項目	基準	基礎点	重要度	評価	最高点	判断材料	
2 事業計画	(5)子育て支援人材の育成、支援について	子育て支援人材の育成等に関する考え方が優れているか			(30)	様式Ⅲ-5⑤ Ⅲ-6	
		地域の子育て支援活動を活性化するための方法、工夫	5・4・3・2・1	×1	5		
		あらたな子育て支援人材の発掘・育成等に関する考え方、方法	5・4・3・2・1		5		
		地域で子育て支援に関わる人のスキル向上のための支援に関する考え方、方法	5・4・3・2・1		5		
		子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気作りの取組	5・4・3・2・1		5		
		妊娠期の方やそのパートナー、学生に対しての、子育てについて考え学び合う機会づくりについての考え方、方法	5・4・3・2・1		5		
		「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5		5		
	(6)地域の中での預け預かりあいの促進について	地域の中での預け預かりあい等に関する考え方が優れているか				(25)	様式Ⅲ-5⑥ Ⅲ-6
		子育てサポートシステムに、多くの地域の人や養育者が参画を得る方法、工夫	5・4・3・2・1	×1	5		
		会員が安心・安全な活動を行えるように、コーディネーターが果たすべき役割についての考え方	5・4・3・2・1		5		
		相談内容に応じて、子育て相談及び他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげるための考え方、方法	5・4・3・2・1		5		
		会員の活動継続を支えるための研修会や交流会等の方法、工夫	5・4・3・2・1		5		
	「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5	5				
	(7)利用者支援事業について	子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関する考え方が適切であり、優れているか			(70)	様式Ⅲ-5⑦ Ⅲ-6	
		利用者支援事業を区民や関係機関に広く周知する方法や気軽に利用できるための工夫	5・4・3・2・1	×2	10		
		個別相談対応における姿勢・養育者等への適切な支援についての考え方、対応方法	5・4・3・2・1		10		
		相談者の状況の見極めと行政や専門機関へのつなぎ	5・4・3・2・1		10		
		出張相談に捉われない地域のサロン等へのアウトリーチの考え方、展開の方法	5・4・3・2・1		10		
関係機関及び地域の社会資源との協働の関係づくりについて、拠点の他の機能を活用した取組		5・4・3・2・1	10				
利用者支援の専任職員に求められる資質についての考え方		5・4・3・2・1	10				
「事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画が優れている。	5	10					
3 管理運営	(1)事業内容の質の確保・向上に関する考え方について	区役所との協働、利用者意見の把握、個人情報保護管理、リスクマネジメントの考え方が優れているか			(45)	様式Ⅲ-7 Ⅲ-5①の5	
		区役所との協働、連携に対する考え方	5・4・3・2・1	×2	10		
		利用者意見、要望の把握、対応方法	5・4・3・2・1		10		
		個人情報保護等情報管理についての計画	5・4・3・2・1		10		
	事故防止等のリスクマネジメントについての計画	5・4・3・2・1	×3		15		
4 財務状況等【事務局評価】	(1)財務状況(安定的な事業実施が可能な財務状況であるか)	財務分析結果が36点以上である	8	×2	16	財務分析結果	
		財務分析結果が28点以上36点未満である	5				
		財務分析結果が20点以上28点未満である	3				
		財務分析結果が20点未満である	0				
	(2)ワークライフバランスに関する取組	①従業員101人未満であり、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画が策定されている(※計画期間内であること)	いずれかに該当する場合は1点加点			8	提出書類
		②従業員301人未満であり、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画が策定されている(※計画期間内であること)	いずれかに該当する場合は1点加点				
		③次世代育成支援対策推進法による認定(くるみん、プラチナくるみん)がされている	いずれかに該当する場合は2点加点				
		④女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく認定(えるぼし)がされている					
		⑤青少年の雇用の促進等に関する法律に基づくユースエール認定がされている	いずれかに該当する場合は2点加点				
		⑥よこはまグッドバランス賞の認定がされている(※認定期間(1/1~12/31)内であること)					
(3)障害者雇用に関する取組	⑦従業員45.5人以上であり、障害者雇用促進法に基づく法定雇用率2.2%を達成している。	いずれかに該当する場合は2点加点					
	⑧従業員45.5人未満であり、障害者(1週間の所定雇用時間が20時間以上で、1年以上継続して雇用される者(見込みを含む))を1人以上雇用している。						
合計					399		
事務局評価を除く合計					375		

提出書類一覧

I 法人の概要・財務状況等

様式No.	提出書類	主な記載事項等	部数
	提案書		1
I-1	法人の連絡先	担当者名、役職、電話番号等	1
様式なし	法人の概要	<p>※ 以下の事項が分かる資料（既存のもので構いません。）</p> <p>※ 法人名を記載しないで下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の沿革について ・法人の概要、運営に関する資料（事業概要、経営理念、方針や、管理体制などがわかる資料を添付。） 	12
様式なし	定款等	最新のもの	1
様式なし	決算書等	(1)最近3年間の決算書類 * 法令等に基づき作成された決算書類、財産目録等事業報告書一式及び決算付属明細表 * 現在経営（運営受託施設を含む）施設の決算書類も含む。	1
		(2)最近3年間の補助金、公的機関からの融資、寄附金等の状況	1
様式なし	男女共同参画及び女性活躍の推進に係る届出等 ※評価申請する場合のみ	労働局の受付印のある次世代育成支援対策推進法における「一般事業主行動計画の写し」(※計画期間内であること)	12
		労働局の受付印のある女性の職業生活における活躍の推進に関する法律における「一般事業主行動計画の写し」(※計画期間内であること)	12
		次世代育成支援対策推進法に基づく（くるみん、プラチナくるみん） 「基準適合一般事業主認定通知書の写し」 または 「基準適合認定一般事業主認定通知書の写し」	12
		女性活躍推進法に基づく（えるぼし） 「認定通知書の写し」	12
		横浜市政策局による「よこはまグッドバランス賞」の 「認定通知文の写し」 または 「認定証の写し」 (※認定期間内であること)	12
I-2	提案書の開示に係る意向申出書		1

II 子育て支援関連事業の活動状況等の実績

※文章中に法人名を記載しないでください。

様式No.	提出書類	主な記載事項等	部数
II	法人の子育て支援関連事業についての考え方、活動実績報告等	横浜市の子育て家庭のニーズを踏まえ、子育て支援関連事業への取組についての考え方等 過去5年間の子育て支援関連の活動実績(既存資料を別添とすることも可。)	12

III 事業運営に関する計画

※文章中に法人名を記載しないで下さい。

様式No.	提出書類	主な記載事項等	部数
III-1	地域子育て支援拠点運営の理念	運営方針、社会福祉事業であることを踏まえた拠点運営の考え方、区の子育て家庭のニーズを踏まえての瀬谷区を希望した理由等	12
III-2	経営方針	経営効率や費用対効果を高める取組についての考え方等	12
III-3	スタッフの確保・育成の考え方	採用・配置の考え方及び育成・研修の考え方等	12
III-4	職員配置の考え方	職員の配置の考え方及びスタッフ間の連携の図り方	12
III-5 事業実施にあたっての考え方			
①	親子の居場所について	親子の居場所の場づくり、子育て支援ニーズの把握及び交流促進等の考え方等	12
②	子育て相談について	実施方法、関係機関との連携、プライバシーへの配慮等について考え方	12
③	子育てに関する情報の収集及び提供について	情報収集・提供の方法・工夫等	12
④	地域との連携・交流について	子育てに関する支援活動を行う人・組織等との連携の進め方、ネットワークを活かした地域との連携方法等	12
⑤	子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援について	新たな子育て支援人材の発掘・育成方法、地域の子育て支援活動を活性化するための方法、活動者のスキル向上のための支援についての考え方等	12
⑥	横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について	子育てサポートシステムに多くの区民が参画する方法、会員が活動を継続できるための支援方法等	12

様式No.	提出書類	主な記載事項等	部数
⑦	利用者支援事業について	事業周知や事業を利用しやすくするための工夫、相談対応等の基本姿勢、拠点の他の機能を活用した取組、専任職員の資質等	12
Ⅲ-6	事業費の見込み	申請時点で想定している事業費の内訳	12
Ⅲ-7	事業内容の質の確保・向上に関する考え方	区役所との連携、利用者意見の把握、個人情報保護、事故防止等についての考え方	12

年 月 日

横浜市契約事務受任者

所在地

法人名称

代表者職氏名

印

提 案 書

下記の書類を添えて、募集要項及びその他資料を熟知のうえ、次の件について、提案書を提出します。

件名：瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人選定

(1) 法人の連絡先（様式Ⅰ－１）（１部）

(2) 法人の概要・財務状況等

- ①法人の概要(12部)
- ②定款等（1部）
- ③最近3年間の決算書類（1部）
- ④最近3年間の補助金、公的機関からの融資、寄付金等の状況（1部）
- ⑤男女共同参画及び女性活躍の推進に係る届出等（12部）※評価申請する場合のみ

(3) 提案書の開示に係る意向申出書（様式Ⅰ－２）（１部）

(4) 法人の子育て支援関連事業についての考え方、活動実績報告等（様式Ⅱ）
（12部）

(5) 事業運営に関する計画（各12部）

- ①瀬谷区地域子育て支援拠点運営の理念（様式Ⅲ-1）
- ②経営方針（様式Ⅲ-2）
- ③スタッフの確保・育成の考え方（様式Ⅲ-3）
- ④職員配置の考え方（様式Ⅲ-4）
- ⑤親子の居場所について（様式Ⅲ-5①）
- ⑥子育て相談について（様式Ⅲ-5②）
- ⑦子育てに関する情報の収集及び提供について（様式Ⅲ-5③）
- ⑧地域との連携・交流について（様式Ⅲ-5④）
- ⑨子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援について（様式Ⅲ-5⑤）
- ⑩横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について（様式Ⅲ-5⑥）
- ⑪利用者支援事業について（様式Ⅲ-5⑦）
- ⑫事業費の見込み（様式Ⅲ-6）
- ⑬事業内容の質の確保・向上に関する考え方（様式Ⅲ-7）

法人の連絡先

法人名		
連絡先	担当者	ふりがな
	役職名	
	住所	〒
	電話	TEL FAX
	E-mail	
連絡先	担当者	ふりがな
	役職名	
	住所	〒
	電話	TEL FAX
	E-mail	

* 連絡先の担当者名は、実務担当者を含め複数名記入願います。

横浜市契約事務受任者

所在地

法人名称

代表者職氏名

印

提案書の開示に係る意向申出書

プロポーザル方式の実施に係る提案書の内容に対して、開示請求があった場合の取扱いについて次のとおり意向を申し出ます。

件名：瀬谷区地域子育て支援拠点運営法人選定

上記の件について、

1. 提案書の開示を承諾します。
2. 提案書の非開示を希望します。

理由：

※本申出書は提案書の内容を非開示とすることを確約するものではありません。「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」等関連規定に基づき、公開が妥当と判断される部分については開示する場合があります。

連絡担当者

所属

氏名

電話番号

ファクシミリ番号

E-mail

経 営 方 針

経営効率や費用対効果を高める取組についての考え方や計画を具体的に記載してください。

スタッフの確保・育成の考え方

1 拠点の運営理念や事業計画を踏まえたスタッフ採用・配置の考え方や計画を具体的に記載してください。

2 スタッフの育成・研修体制の考え方や計画を具体的に記載してください。

職員配置の考え方

1 職員について

No.	従事する業務	勤続年数又は新規の別	性別	年齢	資格	関連職務経験	常勤・非常勤の別
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

※上記職員の配置が分かるよう、職員No.ごとの勤務形態を記入してください。
(勤務時間について午前・午後、終日など分かるように記載してください。)

職員No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日曜日										
月曜日										
火曜日										
水曜日										
木曜日										
金曜日										
土曜日										

2 スタッフ間の連携の図り方について記入してください。

親子の居場所について

【予定している開設日及び時間】

開設曜日（○をつける） 日 月 火 水 木 金 土

開設時間 _____時から_____時まで

開設曜日、時間の設定の考え方

- 1 利用者を温かく迎え入れる場づくりについて具体的に記載してください。

- 2 多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場づくりについて具体的に記載してください。

- 3 養育者と子どものニーズを把握するための工夫について具体的に記載してください。

- 4 親（養育者）自身が親として育ち、また子どもが育つ場としての環境づくり等について具体的に記載してください。

- 5 子どもにとって安全な環境（衛生管理・事故防止）の確保について具体的に記載してください。

- 6 居場所について「瀬谷区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。

子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援について

- 1 地域の子育て支援活動を活性化するための方法、工夫を具体的に記載してください。

- 2 新たな子育て支援人材を発掘・育成するための方法、工夫について具体的に記載してください。

- 3 地域で子育て支援に関わっている人のスキル向上のための支援についての考え方、方法を具体的に記載してください。

- 4 子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気作りの取組について具体的に記載してください。

- 5 妊娠期の方やそのパートナー、学生に対しての、子育てについて考え、学び合う機会づくりについて具体的に記載してください。

- 6 人材育成について「瀬谷区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。

横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について

- 1 子育てサポートシステムに、多くの地域の人や養育者の参画を得るための広報・周知活動の方法、工夫について具体的に記載してください。

- 2 会員が安心・安全な活動を行えるように、コーディネーターが果たすべき役割について具体的に記載してください。

- 3 養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談及び他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげるための考え方、方法について具体的に記載してください。

- 4 会員の活動継続を支えるための研修会や交流会等の方法、工夫について具体的に記載してください。

- 5 横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業について「瀬谷区地域子育て支援拠点事業評価シート」を踏まえて、重点をおいて実施する計画を具体的に記載してください。

事業費の見込み

現時点で想定している事業費の内訳を記載してください。

注) 記載した事業費が、実際に支払う事業費になるわけではありません。委託契約の際には、別途見積書を提出していただき、金額を決定します。

項目	細目	金額	説明（計算、内訳、使途等）
人件費	常勤職員（施設長）		
	常勤職員		
	非常勤職員		
		小 計	
施設費	光熱水費		
	非常通報システム使用料		
	小 計		
事業費	【親子の居場所にかかる経費】		
	【子育て相談にかかる経費】		
	【子育て情報収集・提供にかかる経費】		
	【地域との連携にかかる経費】		
	【人材育成にかかる経費】		
	【横浜子育てサポートシステム区支部事務局事業にかかる経費】		
	【利用者支援事業にかかる経費】		
	【その他】		
	小 計		
合計			

※表は、内訳、使途が分かるように記載し、必要な場合は項目を修正、追加してください。

※事業費部分の記載方法は自由です。

